

株式会社 高木

自動車部品のプレス用金型を 短納期・一貫生産で提供

- 納期相談
- 企画力自信
- コスト相談
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット



本社工場内の様子

主な事業内容

金属加工、機械・金型部品・
治工具・プレス金型部品の製作

主な取引先(納入先)

自動車部品メーカー、
半導体メーカー、電子部品メーカー

主な製品

プレス金型部品、治工具、
機械部品など

業務内容

**特殊形状や難削材など
難しい加工にも対応**

高木は自動車部品などのプレス用金型やパーツ部品を製作する。最終納入先は大手自動車メーカーが多く、自動車業界特有の高い品質要求に応えるため、常に技術を磨き、品質向上に励むとともに、設備投資も積極的に進めてきた。さらに、専門メーカーとしての豊富な経験を生かし、特殊形状の金型加工や難削材加工などでも実績を上げてきた。

昭和55年に高木将宗現社長の父である高木博明氏が創業した。昭和63年に法人化し、大手自動車メーカーのサプライヤーとして、長年にわたり金型および同部品を製造してきた。令和3年に将宗氏へと事業継承し、さらなる体制強化を図っている。

強み ニーズに合った治工具や刃物も自社で製作

フライス加工から研磨、組立、最終検査まで、ほぼ一貫した生産体制を実施し、短納期を実現。同社の企業規模で一貫生産を実施していることは珍しい。ほかにも、事前に金型材料を発注して在庫を豊富に保有し、焼入れ処理を行う

しておくことで、最短で即日の納入が可能だ。また、難加工の案件にも対応しており、大手メーカーや工作機械メーカーとともに新しい加工方法を共同開発。焼入れした高硬度の超難削材に対し、加工精度を0.002mm内に収めた実績がある。さらには、取引先のニーズに合った工具や治工具類も製作しており、「金型製作だけでなく、切削加工をはじめ様々な依頼に対応できる」と高木社長は胸を張る。

工程管理 連携不足解消 工程管理システムで

同社は「見える化」を行い、工場のDX化を進めている。独自開発した工程管理システムの導入により、作業員の日報を工程管理に関連づけることで、連携不足によるタイムロスなどを解消。また、各作業員の作業効率や作業量を算出することで定量的な人事評価を実施。さらに、見積の算出についても材料金額などの各種条件のデータ蓄積により大幅な負担軽減を達成した。「日常の事務作業を含め工程や部署間のムダを解消し、当社の強みである短納期および一貫生産体制を補強できている」。こう話す高木社長は、さらなるDX化に意欲的だ。

社長あいさつ



代表取締役社長
高木 将宗さん

職人技といわれる属人化していた技術をデータとして蓄積し「見える化」を行い、若い世代への技術継承を進めています。零細企業では数少ない工場DXの先進企業として、金属加工業界の発展に寄与し、また、これまでの経験も生かして新たな取り組みにチャレンジしていきます。

主な保有設備

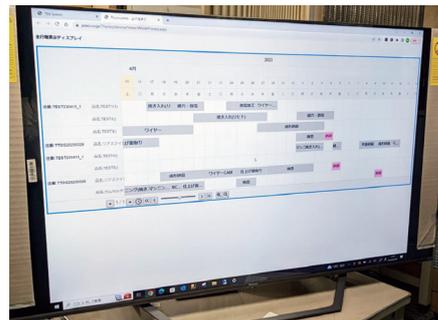
- ワイヤ放電加工機 UltraMM50Bほか 西部電機製ほか 5台
- マシニングセンタ V33i 牧野フライス製作所製ほか 2台
- 研削盤 WINSTAR アマダマシナリー製ほか 3台
- フライス盤 AE-85ほか 牧野フライス製作所製ほか 2台
- 3D形状測定機 VR-6200 キーエンス製 1台

大阪 05

住所 / 〒581-0813
八尾市 泉町2-4
TEL / 072-997-7356
FAX / 072-997-7474
創業 / 昭和55年9月
設立 / 昭和63年6月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 18名



ネパール出身従業員によるSNS発信



工程を「見える化」した画面



<http://www.tks-takagi.co.jp>